



区民

かわら版

「我が家のエコアクション！」優秀作品決定！

区では、「我が家のエコアクション！」として、地域や家庭での環境にやさしい生活の工夫や取り組みを募集しました。専門家を交えた審査会において選考した結果、最

優秀賞1点、優秀賞3点を決定しました。皆さんもこれらの取り組みを参考にして、地球にやさしい生活を実践してみませんか。

「地域をあげての環境活動の取組」 優秀賞 山階ごみ減量推進会議（山階学区）

山階学区では各種団体相互の結束による様々な社会貢献活動が行われています。その中でも環境活動の一環として、市民団体だけにとどまらず、更なる「地域コミュニティの輪」を広げるべく地元企業であるマツヤスーパー三条店の協力を得て、店頭での使用済てんぷら油の回収を先駆的に始められました。

「児童館におけるエコ活動」 優秀賞 京都市花山児童館（鏡山学区）

児童館を利用する児童・保護者を対象として、環境啓発と実践を行い、地域住民の

環境問題への関心を高め、子どもや子育て家庭を支えるエコ地域づくりを目指すために、乳幼児親子を対象とした「子育てファミリーエコサロン」、月1回の「エコ教室」などに取り組んでいます。

「かえっこバザール in やましの各地域での開催」 優秀賞 京都橘大学現代ビジネス学部 小暮ゼミ

平成22年度小暮ゼミでは、2回生のフィールド活動として、3回の「かえっこバザール」を区内で開催しました。

「かえっこバザール」では、いらなくなったおもちゃを交換（リユース）することにより、子どもたちだけでなく大人も物を大切に作る心を育てる活動を行っています。



「ペットボトルのキャップで世界の子供たちへワクチンを！」 優秀賞 京都洛東ライオンズクラブ

平成22年11月23日のふれあい「やましの」区民まつりのテントブースにおいてペットボトルのキャップ、プルタブ、中古眼鏡、乾電池の回収を行い、来場者に環境啓発を実施しました。ペットボトルのキャップはポリオワクチンに、プルタブは車椅子に変わり、中古眼鏡は途上国に送られ、乾電池はリサイクルにより活用します。

エコキャップ回収箱は区役所にも設置しています。

問合せ先 市民ぐるみ運動山科区推進本部 事務局 区まちづくり推進課(☎592-3088)

ふれあい「やましの」2011 区民ふれあい文化祭 区民ギャラリー受賞者決定

2月13日(日)に開催された区民ふれあい文化祭「区民ギャラリー」に出展された作品211点の中から、各部門の「ふれあいやましの賞」受賞作品(最優秀作品)を紹介します。

絵画 一般の部



「情熱」
豊田 光子さん

小学生・中学生の部



「心に残る風景」
勸修中学校2年
中嶋 亮太さん

保育園・幼稚園の部



「ねずみさんと子どもたちいっしょに」
万因寺保育園5歳児
若林 優菜さん

写真



「大晦日の雪の朝」
山川 登さん

リサイクルアート



「今に包まれて」
森 登茂子さん

書道



一般の部
「漢詩」
金丸 修さん



小学生・中学生の部
大塚小学校3年
廣瀬 まいさん

問合せ先 ふれあい「やましの」実行委員会事務局 区まちづくり推進課(☎592-3088)

早春 はねず踊りと今様

「はねず踊り」は、小野小町を恋慕う深草少将が百夜通いをした悲恋を、わらべ歌に合わせ、はねず(薄紅)色の小袖をまとった少女たちが可憐に踊る催しです。

また、境内には多くの梅の木があり、和歌や俳句を書いた短冊が吊るされています。これは主に、寺院の関係者の方が吊るしたのですが、見学された方も良い句が詠めた場合は、短冊を吊るしてもかまわないそうです。

日時 3月27日(日)
①午前11時 ②午後0時30分
③午後1時30分 ④午後3時
(計4回)

場所 随心院境内(雨天の場合は能の間)
小野御霊町35(地下鉄東西線「小野駅」下車、東へ徒歩5分)

費用 大人/1,000円 中学生/800円
(拝観・梅園入園料含む)

問合せ先 はねず踊り保存会(☎571-0025)



もっと
知りたい!

山科の大学

第6回 京都薬科大学 期待される薬剤師
—薬学教育6年制—

薬は病気の治療に欠かせないものですが、一方で副作用や飲み合わせ(相互作用)の心配があります。また薬によっては飲むタイミングにより効果が異なります。例えば骨粗鬆症の薬は起床時、ステロイド剤や利尿剤は朝または昼、コレステロール値を下げる一部の薬は夜に服用するなど、薬は正しく使うことが重要です。従来、医

師を中心に展開してきた医療ですが、最近では患者さんを中心に、医師、薬剤師、看護師、検査技師等が集まり、それぞれの専門性を活かして治療を進める「チーム医療」という概念に変化してきました。薬剤師もチーム医療の中で薬の専門家として医師への疑義照会や処方設計支援を行っています。薬剤師が十分にその機能を発揮し

ている施設では医療事故も減少しているなど、医療の高度化・専門化に対応でき、社会が求める「質の高い薬剤師」を養成するために、2006年度から薬学教育は6年制に移行しました。

6年制教育の特徴は、5年次に病院・薬局で実施する各11週間の実務実習です。臨場感ある現場で実務を経験することにより、学生は薬剤師としての使命感や倫理観、生命の尊厳といった大学教育だけでは修得しがたいものを、自分の感性で受け止められるまでに成長しました。

大学は優秀な人材を社会に送り出す使命を持っています。薬の専



門家としての知識はもちろんのこと、医療人としての心構えや優しさ、おもいやりなど、人間性豊かな人材を育成します。新しい薬剤師の活躍にご期待下さい。

京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長 高山明教授執筆